

学校だより

プラタナス



令和2年6月3日(水)

No.11 市川市立市川小学校
校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>



自主性や主体性を育てるにはどうしたらよい？

子供の「自主性」あるいは「主体性」を育成するにはどうしたらよいか、学校でも家庭でも大きな課題の一つです。一般的には、次のように言われています。

- 自主性 : 単純にやるべきことは明確で、その行動を率先して人に言われなくて自らやること
- 主体性 : 何をやるかは決まっていない状況で、自分で考えて判断し行動すること

つまり、自主的な人は、先生や親など周囲から言われなくても、率先して元気に挨拶することができます。一方、主体的な人は、挨拶をする目的を考えます。例えば、「学校を明るくてよい雰囲気にする」と目標設定したら、挨拶以外にも朝の音楽を流してみようと企画して実行することができます。

私たち大人は、これまでの経験上、失敗したこともたくさんあります。むしろ失敗の連続だったかもしれません。すると、「子供には同じ失敗をしてもらいたくない」という思いや「こうしたほうがいい」という気持ちが生まれます。そして、「良かれ」と思って押しつけてしまいがちになります。しかし、それでは子どもの自主性・主体性は育ちません。

自主性とは、先述のように「自ら行動すること」ですが、大人が先回りして、子どもに「ベストアンサー」を提示してしまうケースは決して珍しいことではありません。答えを事前に用意し、答えに向かって頑張る姿を自主性・主体性と錯覚している場合も多いのです。ベストアンサーが用意され、それに向かう行動は、自主性や主体性ではなく、「従順性」です。「大人の言うことを聞くかどうか」が問われているものであって、子ども自ら考えて行動しているわけではありません。この時に身に付くのは、言われたことをやる「実行力」で、目指すものとは別物となってしまいます。もちろん実行力も大切ではありますが、決してよい方法とは言えません。

逆に言うと、失敗することもまた大切だということです。そして、失敗することを恐れないことこそ、自主性・主体性の育成につながるのではないのでしょうか。失敗することを怒るより、むしろチャレンジしたことをほめることで、子供は「悪いことじゃなかった」と認識します。子供にとって親や先生の存在はとても大きいわけですから、親や先生から否定されることは、傷つくとともにモチベーションが低下すると言えるのです。



子供は好奇心旺盛です。あれこれ言われなくてもチャレンジしたくなるものです。この行動の先にある失敗という「結果」を叱責すると、チャレンジそのものまで否定されているかのような気持ちになり、チャレンジしようとする意欲・気概(=自主性・主体性)が消えていきます。私たち大人がすべきことは、子供の失敗の責任を負うことであって、怒ることではないのだと思います。繰り返しにはなりますが、「自ら考えて行動する力を育てるには、失敗を恐れない環境をつくる」と言えます。

仮に、「気をつけて～」と親が言っているそばから子供が転んで泣きそうだとします。その子になんとか声をかけますか？

パターン1「だからあれほど言ったでしょ！」

⇒ ㊦ 失敗すると怒られるから「もう何もしない！」

パターン2「痛かったねえ。どうして転んじゃったのかな？」

⇒ ㊦ 前を見ていなかったから「今度は気をつけよう」



行動力にまで高められる意図的な言葉かけ。これは、学習における発問や切り返しの言葉に通ずるところがありますので、何気ない言葉、表情であっても気を配れる教職員でありたいと願います。市川小学校の経営目標達成を図るためにも、失敗を次につなげたくなくなる寛容な雰囲気醸成が大事なのだと思っています。家庭と地域、学校が手を携え、低学年段階での自主性を、高学年となるにしたがって主体性を高めていけるようでありたいと思っています。ご協力ください。

【引用】 <https://www.shinga-s-club.jp/column>



14号門のこのポール、何のために？

下校指導のために立っていると、ある男児から「このオレンジのポールは、なんであるの？」と質問されました。同じように、通行中の年配の男性にも問われました。たった数日見ていただけですが、この14号門は下校の時間帯が危険だと思いました。このポールは、昨年度、市教委によって児童の安全確保のために設置されました。

ただ、次に示す課題から考えますと、児童と歩行者等双方への注意喚起が目的(役割)だと考えます。

【課題①】 校庭から歩行者用信号を見て、青であることを確認すると、門をダッシュで飛び出し横断歩道を渡ろうとする児童がいるため、通行人や自転車、ベビーカーとの衝突の危険性がある。

【課題②】 複数学年で下校時刻が重なると、信号待ちをするたくさんの児童が歩道にたまって、歩道を往來する人や自転車の妨げとなってしまうことが危惧される。

ポールには「子どもに注意」の文字が見えます。歩道を通行する人や自転車には、学校の門があって「児童が出てくる可能性があります」と伝えていきます。ポールの間隔が門扉の幅よりも広いのもそうした理由からかもしれません。

また児童には、ポールとポールの間を人や自転車が通行できるように空けて待機するように示していると解釈できます。歩行者用信号が青に変わるまで待つ場合は、道路側と門扉側に分かれて、中央を空けることで、安全でみんなが気持ちよく通行できるのではないのでしょうか。また、学校の内側にも、地面には「とまれ」の標示、門扉には「門を出る前に一度止まり、左右の確認をして歩いて帰りましょう」とあります。飛び出しは自他の命を危険にさらしますから。

交通安全とマナーについて、今後も家庭と学校とで手を携えて。



学級懇談会 6月26日(金)14:30～ お忙しい中ですが、皆様のご参加をお待ちしております。